

## 2 令和8年度「星空舞」栽培指針

### I 生育指標・技術内容の一部改訂(標高適応性(作付可能地帯)標高500m程度)

収量、品質、食味の安定を目的とした標高地帯別(平坦地帯(標高0～150m未満)、中間地帯(150～300m未満)、山間地帯(標高300m以上)における生育指標及び生育指標達成のための技術内容を、以下のとおりとする。

#### 標高地帯別の生育指標

地 帯 \ 形 質	総粒数(/㎡)	幼形期茎数(/㎡)	穂数(/㎡)
平坦地帯(標高150m未満)	25,000～29,000粒	290～420本	300～360本
中間地帯(標高150～299m)	25,000～32,000粒	320～540本	300～410本
山間地帯(標高300m以上)	25,000～34,000粒	310～540本	290～430本



生育指標達成の場合全ての標高地帯でおおむね以下の収量・品質・食味を達成する  
【目標値】  
○精玄米歩合 92%以上  
○収量 500 kg/10a 以上  
○整粒率 70%以上  
○食味値80以上



#### 生育指標を達成するための技術内容

地 帯 \ 形 質	葉色 (SPAD値)				水管理指標値								
					土壌硬度 (mm)			かかと沈下深 (cm)			亀裂幅 (mm)		
	幼穂形成期	穂肥 I 時	出穂期	出穂20日後	中干終了時	幼穂形成期	出穂20日後	中干終了時	幼穂形成期	出穂20日後	中干終了時	幼穂形成期	出穂20日後
平坦地帯 (標高150m未満)	36以下	35以下	36以下	34以下	11mm	3～10mm	3～6mm	4cm	5～9cm	7～9cm	10mm	3～8mm	3～5mm
中間地帯 (標高150～299m)	38以下	—	35以下	34以下	11mm	1～8mm	4～7mm	4cm	6～10cm	6～8cm	10mm	1～6mm	3～6mm
山間地帯 (標高300m以上)	33以下	—	37以下	37以下	11mm	2～7mm	1～8mm	4cm	6～9cm	6～10cm	10mm	2～6mm	1～6mm

注1) かかと沈下深: 長靴をはいた片足にゆっくり体重をかけ、田面が沈んだ深さを示す。面積の小さい範囲の測定になるため、体重による差はほとんどない。

注2) 中干終了時の土壌硬度・かかと沈下深・亀裂幅は令和4年の農業試験場ほ場の数値

**※基肥増施等の施肥改善が、生育に及ぼす影響を確認しながら、収量性向上と品質・食味維持を両立する生育モデルの検討を継続。**

### II 栽培技術

項目	技 術 内 容	理 由
収量・品質・食味目標	【収量・品質・食味目標】 精玄米歩合 92%・玄米収量 500kg/10a・整粒率 70%・食味値 80 以上	・整粒率は、農業試験場で新規導入した穀粒判別器(RGQH100B)の数値とする。(より目視に近い数値で判定) ※今後、収量目標を向上しても食味値80以上を維持できる可能性が高く、市場評価を高めるために、令和7年度から目標値を向上した。 <b>現地の積極的な増施による増収事例を収集しながら、品質及び食味関連の目標水準を高める取組みを継続。</b>

ほ場	<div>・大豆跡・レンゲ跡ほ場も作付可能とする。</div> <div>・堆肥施用についても施肥可能とする。</div> <div>※堆肥の施用量、レンゲの鋤込み量は2トンまでとする。</div> <div>表 レンゲの草丈及び生草量と、窒素・リン酸・加里成分量との関係</div> <table><tr><th rowspan="2">生草重 (t/10a)</th><th rowspan="2">草丈 (cm)</th><th colspan="3">平均値(kg/10a)</th><th colspan="3">最低値(kg/10a)</th><th colspan="3">最高値(kg/10a)</th></tr><tr><th>窒素</th><th>リン酸</th><th>加里</th><th>窒素</th><th>リン酸</th><th>加里</th><th>窒素</th><th>リン酸</th><th>加里</th></tr><tr><td>0.8</td><td>35</td><td>3.2</td><td>0.1</td><td>2.7</td><td>2.7</td><td>0.1</td><td>2.3</td><td>3.8</td><td>0.2</td><td>3.0</td></tr><tr><td>1.1</td><td>40</td><td>4.7</td><td>0.2</td><td>3.9</td><td>3.9</td><td>0.1</td><td>3.4</td><td>5.6</td><td>0.2</td><td>4.5</td></tr><tr><td>1.5</td><td>45</td><td>6.3</td><td>0.2</td><td>5.2</td><td>5.2</td><td>0.1</td><td>4.4</td><td>7.4</td><td>0.3</td><td>5.9</td></tr><tr><td>1.8</td><td>50</td><td>7.8</td><td>0.3</td><td>6.4</td><td>6.4</td><td>0.2</td><td>5.5</td><td>9.1</td><td>0.4</td><td>7.3</td></tr><tr><td>2.0</td><td>52</td><td>8.4</td><td>0.3</td><td>6.9</td><td>6.9</td><td>0.2</td><td>5.9</td><td>9.8</td><td>0.4</td><td>7.9</td></tr><tr><td>4.0</td><td>80</td><td>16.8</td><td>0.6</td><td>13.9</td><td>13.9</td><td>0.4</td><td>11.9</td><td>19.8</td><td>0.8</td><td>15.8</td></tr></table> <div>注1)レンゲ生草量と草丈の関係は<math>y=7.106X-172.558</math>(<math>r=0.9822^{**}</math>)(y:生草重kg/a、X:草丈cm)を用い適用範囲は草丈35～85cmとした。(苗立ち数の適用範囲:160～860本/㎡)</div> <div>注2)レンゲ生草量1トン当たりの成分量(kg/10a)は、窒素3.5～5kg、リン酸0.1～0.2kg、加里3～4kgとした。</div> <div>・雑草発生の少ない良質なほ場を選定し、日照が不足しがちな谷間での作付は避ける</div> <div>・標高 500m 程度までの作付とする</div> <div>※出穂晩限までに出穂期を迎えるような田植時期とする。(標高 400m以上は5月上旬田植)</div> <div>※より高標高地域での作付をする必要がある場合は、冷涼な気象の影響で登熟が困難となるリスクを十分考慮した上で取り組むこと</div>	生草重 (t/10a)	草丈 (cm)	平均値(kg/10a)			最低値(kg/10a)			最高値(kg/10a)			窒素	リン酸	加里	窒素	リン酸	加里	窒素	リン酸	加里	0.8	35	3.2	0.1	2.7	2.7	0.1	2.3	3.8	0.2	3.0	1.1	40	4.7	0.2	3.9	3.9	0.1	3.4	5.6	0.2	4.5	1.5	45	6.3	0.2	5.2	5.2	0.1	4.4	7.4	0.3	5.9	1.8	50	7.8	0.3	6.4	6.4	0.2	5.5	9.1	0.4	7.3	2.0	52	8.4	0.3	6.9	6.9	0.2	5.9	9.8	0.4	7.9	4.0	80	16.8	0.6	13.9	13.9	0.4	11.9	19.8	0.8	15.8	<div>大豆跡・レンゲ跡、堆肥施肥において、食味、品質に悪影響が出ないことが確認されたため。</div> <div>・但し、以下の基準を厳守する。</div> <table><tr><th>区分</th><th>栽植密度</th><th>基肥窒素</th><th>穂肥Ⅰ</th><th>穂肥Ⅱ</th></tr><tr><td>大豆跡</td><td rowspan="4">坪 50～60 株</td><td>無施用</td><td rowspan="4">葉色診断に 応じて 0kg、 2kg</td><td>無施用</td></tr><tr><td>排水不良</td><td>0～2kg</td><td rowspan="3">葉色診断に 応じて 0kg、 1kg、2kg</td></tr><tr><td>高地力</td><td>無施用</td></tr><tr><td>レンゲ跡</td><td>3kg</td></tr><tr><td>堆肥施用</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>・レンゲの鋤き込み:生草量は 2 トンまでとし、田植 20 日前までに鋤き込む。</div> <div>・混合堆肥等即効性成分を多く含む資材を春施用する場合は、堆肥成分表を確認の上、3 割程度減肥する。</div> <div>※高地力田:「コシヒカリ」を慣行施肥量で栽培した場合に倒伏するような水田</div> <div>※排水不良田:2～3年程度に一度の割合でしか中干しが十分にできないような水田</div> <div>・平成 27 年の低温年でシミュレーションしたところ、出穂晩限までに出穂期を迎えた場合、標高 500m程度まで成熟可能と判断された。なお、R3～5 年産は標高 655m (R 2 年度は標高 485m) まで成熟した。</div>	区分	栽植密度	基肥窒素	穂肥Ⅰ	穂肥Ⅱ	大豆跡	坪 50～60 株	無施用	葉色診断に 応じて 0kg、 2kg	無施用	排水不良	0～2kg	葉色診断に 応じて 0kg、 1kg、2kg	高地力	無施用	レンゲ跡	3kg	堆肥施用				
	生草重 (t/10a)			草丈 (cm)	平均値(kg/10a)			最低値(kg/10a)			最高値(kg/10a)																																																																																																			
		窒素	リン酸		加里	窒素	リン酸	加里	窒素	リン酸	加里																																																																																																			
	0.8	35	3.2	0.1	2.7	2.7	0.1	2.3	3.8	0.2	3.0																																																																																																			
1.1	40	4.7	0.2	3.9	3.9	0.1	3.4	5.6	0.2	4.5																																																																																																				
1.5	45	6.3	0.2	5.2	5.2	0.1	4.4	7.4	0.3	5.9																																																																																																				
1.8	50	7.8	0.3	6.4	6.4	0.2	5.5	9.1	0.4	7.3																																																																																																				
2.0	52	8.4	0.3	6.9	6.9	0.2	5.9	9.8	0.4	7.9																																																																																																				
4.0	80	16.8	0.6	13.9	13.9	0.4	11.9	19.8	0.8	15.8																																																																																																				
区分	栽植密度	基肥窒素	穂肥Ⅰ	穂肥Ⅱ																																																																																																										
大豆跡	坪 50～60 株	無施用	葉色診断に 応じて 0kg、 2kg	無施用																																																																																																										
排水不良		0～2kg		葉色診断に 応じて 0kg、 1kg、2kg																																																																																																										
高地力		無施用																																																																																																												
レンゲ跡		3kg																																																																																																												
堆肥施用																																																																																																														
栽培様式	<div>・<b>移植(高密度苗含む)・直播等の栽培様式は限定しない。※但し、直播栽培は様式が多様で、雑草多発や収量減のリスクが伴うため、技術の本格導入前に指導機関へ相談の上実証のこと。</b></div> <div>・移植では育苗期間が適正な健苗の育成に努める。</div>	<div>・<b>直播栽培に適性の高いきぬむすめ対比で、湛水表面散播において倒伏性等の栽培特性に問題はなく、移植対比で品質、食味に差がないことを確認(R5～7 年度)。</b></div> <div>・高密度播種苗栽培(植付株数坪 50～60 株)では、収量、品質、食味に影響がないと確認された(R6)。</div> <div>・展示ほ(H30 年)において、播種から田植えまでの日数が過多となった老化苗移植ほ場があり、生育・収量に悪影響を及ぼす事例があったため。</div>																																																																																																												
田植	<div>・田植時期は、5 月 16 日から 5 月 31 日までとする。</div> <div>※地域の水利慣行に対応して 5 月 31 日以降の田植になる場合はくず米発生のリスクを考慮すること</div> <div>・平坦地帯では、くず米の増加を抑えるために 5 月末日までとする。</div> <div>※くず米の目安は、5/24 までで 8%未満、6/7 までであれば 10%未満</div> <div>・中間地帯では、幼穂形成期茎数を抑え、高い玄米品質を維持するため、5月中下旬以降とする。</div> <div>・山間地帯については、成熟不能のリスクを回避するため、高標高では出穂晩限より前に出穂するよう、5 月上旬までに田植を行う。</div>	<div>・田植期が極端に早いと、「コシヒカリ」との作期分散によるメリットが小さくなるため</div> <div>・農試の田植時期に関する試験(H27 年)において、6 月 5 日植で稈の伸長、白濁未熟粒増加の傾向が見られ、遅い田植期ではリスクが更に高まることが予想されるため</div> <div>・収量、品質、食味の安定に資するための標高地帯別の生育指標を達成するには、地帯区分別の田植日の設定が必要のため</div> <div>・山間地帯については、冷涼年の登熟停止のリスクを回避するために継続した事例の収集が必要</div>																																																																																																												
栽植密度	<div>・田植機の植付株数を坪 50 株～坪 60 株設定とする。</div>	<div>・坪 40 株以下では食味低下の懸念があり、栽植株数は坪 50 株～坪 60 株設定が妥当</div> <div>・農試の栽植密度に関する試験(H29 年)において、疎植により稈が伸長し倒伏のリスクが高まる傾向が見られ、場内栽植密度試験の解析により、坪 40 株以下では食味の低下が懸念されるため</div>																																																																																																												



培試験(H28 年)及び専門技術員による智頭町「コシヒカリ」の品質向上のための調査研究(H26 年)において、中干しを行うことで品質、食味が向上することが認められている。

容易に倒れる水田 ← → 倒れにくい水田

<p>・収穫前 10 日以前に完全落水しない。          ※完全落水:水尻を落として、入水しないこと</p>	<p>・「コシヒカリ」における落水時期に関する試験結果(H7 年) (「登熟期間の温度、水管理が米の品質に及ぼす影響」) 及び奨励品種決定調査現地試験(H29 年)において、早期落水により収量が低下することが認められたため</p>
--	---

収 穫 時	☆標高 300m 未満; 有効積算気温 620~770℃・日 (穂管気温 1000~1260℃)	・累年データを用いた解析により、星空舞の収穫適期は、標高 300mで区分するのが妥当
-------------	--	---

標高区分	出穂後日数 (日)	出穂後有効積算気温 (℃・日)	出穂後積算気温(℃)	青杪率(%)	籾水分(%)	食味値
300m未満	39～50日	620～770℃・日	1,000～1,260℃	0～10%	19～22%	88～89
300m以上	41～55日	510～620℃・日	920～1,170℃	0～12%	23～24%	85～90

調製出荷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.85mm のふるいで選別する。</li> <li>・収穫物は品種毎に区分管理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示は(R 元年)の解析により、1.80mm のグレーダーで玄米を調製すると、精玄米収量は約 5%増加するが、整粒率が有意に低下すると考えられたため</li> </ul>
------	--	---

<p>         籾の取扱          い他       </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家採種せず、毎年更新種子を使用し、種子の譲渡は絶対にしない。</li> <li>・育苗作業において、品種ラベルの貼付、品種名の確認や機器の清掃を徹底し、別品種と区分する。</li> <li>・定期的にはほ場を見回り、漏生苗等は確実に抜取る。</li> <li>・品種が異なるごとにコンバインの清掃を徹底し、残留籾を完全に除去する。</li> <li>・乾燥調製作業に使用する機械・ラインは、品種が異なるごとに清掃を徹底する。</li> <li>・乾燥機、貯留タンク、籾摺機等に品種ラベルを明示する。</li> <li>・米袋、フレコンは、品種ごとに明確に区分して保管・出荷する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異品種混入によるブランドイメージの低下を防止するため</li> </ul>
---	---